

平成 29 年度「食と農のミライ」作文コンテスト
＜中学・高校・高等専修学校生の部＞
審査員特別賞

伊豆大島の食と農のミライ～新規就農者研修センターの重要性～

私の考える農業の未来は、その地域の特産品を生かし、例えば「みかんと言えば愛媛だよね!」と言ってもらえるようなものを作って全国に販売、PRしていくことが大切だと思います。

私は今、伊豆大島の東京都立大島高等学校の農林科で、農業について専門的に勉強しています。また、私の両親や祖父母は、大島でブバルディアを作っており、私は将来、家を継いで花農家になろうと思っています。

伊豆大島のブバルディアは、全国トップクラスのシェアを誇る一大産地ですが、島内での認知度は低く、私の友人に聞いてみても「ブバルディアって何?」と聞き返されます。生産量は日本一なのですが、その生産地域でも認知度が低いものを、全国にPRしていくことは非常に難しいと思います。

私は、人に知られていないものは、それを必要とする人もいなく、それを作ろうとする人もだんだんといなくなり、やがてその職業は消えてしまうと思っています。つまり、「30年後の伊豆大島では、ブバルディアも、その生産農家も存在しない。」ということになってしまいます。そうならないようにするためにも、まずは生産地域でその認知度を高めるため、保育園児や小中学校の児童や生徒を対象に、ブバルディア農園での作業体験や見学などを積極的に受け入れ、少しでもその価値を広めていくことが重要だと考えています。

そして、より多くの子どもたちが、「将来は花農家になりたい。」と思ってもらえるようにしていくべきではないでしょうか。

しかし、誰でもいきなり花農家になれるということはありません。学ぶ機会がなければ、花の育て方がわからない、という状況になってしまいます。もちろん、私の通う都立大島高校の農林科で勉強し、卒業後に専門学校や大学でさらに農業についての専門性を深め、就農することはできると思いますが、今、伊豆大島には、「大島町新規就農者支援研修センター」という施設があります。ここでは、ブバルディアを中心に、ハランや、野菜を栽培しています。

私は、高校を卒業したらこの研修センターで、ブバルディアのことについて、実際の農家さんから話を聞きながら学んでいきたいと思っています。そこで作った花や野菜は、実際に出荷して、その利益を自分の収入にすることができます。これはとても素晴らしい制度だと思います。当然、これには地域の農家さんの協力が必要不可欠です。地域の農家さんが、仕事の合間を利用して教えに来てくれているため、本職の人から現場での業務を教えていただけるので、非常に効率的な研修制度だと思います。

こういった研修制度が全国にふえると、農業をやりたい人がしっかりと知識を持って農業を始められると思います。その地域ごとに有名な特産品の研修センターを作ることによって、例えば、「私はミカン農家になりたいから愛媛県に行こう」というようなことが出てくると思います。

しかし、先述したようにこの施設には地域の農家さんの協力が必要です。この制度を運用するためには、国や県から指導者の農家さんに、それなりの報酬があってもいいと思います。

今、全国的に農家の人口はどんどん減っています。原因としては、土日なしで働き、収入も安定しにくい。そもそも土地がない。土地を借りることができない。始めたのはいいが、収入が安定しなく、食べていけない。などの理由で、約三割の人が数年以内に離農するという現状です。

そこで、私は、土地がないもしくは土地を借りられない現状の対策として、研修センターの存在があると思います。地域の農家さんに教えてもらった研修生の研修期間が終わっ

ていざ就農するとき、その地域の人たちは、よほどの理由がない限り、その土地で農業をやってほしいと思うはずでず。そうすれば、たとえ研修生が所有している土地がなくても、地域の人や、町が土地を貸すなり売るなりしてくれるのではないかと思います。

大島にはすでに研修センターがあり、実際に農家になっている人も出ているので、大島が全国のお手本となり、多くの地域で、こうした研修制度が採用されていってほしいと思います。

イメージだけの「なったらいいな」で終わることのないように、私も今からしっかりと勉強して、大島の研修センターを経て花農家になったら、「ブバルディアと言えは大島だよね！」と、言ってもらえるように頑張っていきたいです。